

平成22年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475400808	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	日本ケア創造株式会社		
事業所名	在宅サポートセンター生田 グループホーム響		
所在地	( 214-0039 ) 神奈川県川崎市多摩区栗谷4-6-13		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成23年1月6日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアをしっかりとし、できる限り機能低下を防ぎ生活の質の向上と健康面、安全面に注意し楽しく生活していただく 生活リハビリを取り入れた介護により普通のお風呂に車椅子になっても入ることができる
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄8階		
訪問調査日	平成22年2月14日	評価機関 評価決定日	平成23年5月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所概要】</b> 当事業所は小田急線・生田駅から徒歩12分ほどの所であり、多摩丘陵の中腹に位置している。周辺は住宅地である。同じ建物内にデイサービス、宅老所、介護支援事業所があり、一体型で事業を展開している。グループホームは2階にあり、1ユニット(利用者9名)で運営されているが、夜勤は2名体制である。 <b>【「あるがままを大切に」の理念を実践している】</b> 「あるがまま」とは、利用者が「これまでに過ごしてきた自分の暮らし方を、ここに来てからも継続して生活する」ことで、理念の中で最も大切な事と認識して、日常の支援の中でこれを実践している。利用者個々の自立した生活を尊重しながら、利用者の出来ないことや要望を的確に判断してその手助けをすることで、利用者の日常を補完している。 <b>【地域との連携】</b> 経営責任者が地元出身の医師であることで、地域住民との交流や事業に対する理解が好意的に受け入れられる良好な環境になってきている。町内会との交わりも進み、地域内の多くの催事に参加したり、事業所の経営に関する会議に地域住民の参画を得て、地域密着型のサービスの進展に努めている。 <b>【医療との連携】</b> 経営者が医師で、また、看護師が常に待機できる状況にあり、職員も安心して勤務できている。主治医との連携も看護師が行うので、より高い医療の連携が出来ている。また、生活リハビリを主体に支援しており、機能低下を防ぐことを目標に努力している。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	在宅サポートセンター生田 グループホーム響
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、理念を共有するよう努力している	開設当初に全職員の意見を基に決めた「あるがままを大切」という理念は今もしっかりと根付いている。利用者の生活ペースにあわせた支援を行うために、全職員が出席してきめ細かい個別カンファレンスを行っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域のお祭りに参加している	地元の医師である社長は地域内で多くの役職を引き受け活動をしている。近隣の須加大社の境内で行われる6月の演芸に全員で見学に行き、8月の盆踊りにも参加をしている。散歩で顔見知りになった方から柚子を頂いたこともある。無料の介護セミナーのお知らせを町内の回覧板に載せている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多摩区の認知症介護講座の見学を受けたり老人会などに介護講座をしている		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しグループホームの状況報告や介護の話し合いをおこなっている	2ヶ月に一度区職員・町内会役員・民生委員・老人会長・地域包括支援センター職員・家族などの参加で開催されている。運営等のアイデアや地域の情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい状況報告をおこなっている また何かあった時はその都度報告している	認定審査会の委員でもある法人社長は区の職員や議員とも懇意にしている。運営推進会議の議事録を報告するときに意見交換を行っている。法人が主催している介護セミナーの案内をグループホーム連絡協議会に連絡している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成しているも基本的に身体拘束は行わない	「あるがままを大切に」するため、毎月行われるスタッフミーティングで声かけや個人を大切に支援するための話し合いを行っている。いかなる場合でも拘束や虐待を行わない方針ある。夜間も2人体制で勤務を行っている。日中は施錠をしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成しスタッフにどのようなケースが虐待になるか伝えている		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてミーティングで伝えたり必要な家族には情報提供している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時読み説明をしてその都度質問に答えている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置きました来所時声をかけ意見、要望を聞いている	意見箱を設置しているが苦情は無い。来所時に必ず声かけを行い要望や意見を家族から収集している。外部評価のアンケートで出た要望や希望を真摯に受け止め改善を行っている。	共に運営していく喜びを家族や利用者が持てるよう、利用者や利用者家族からの要望や意見をさらに引き出すような工夫を期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを設け意見を聞くようにしている また代表者は賞与時スタッフ1人1人と話す機会を持っている	毎月のスタッフミーティングでフリートークの時間を設けたり、連絡ノートに記載された提案を検討している。管理者も日頃から職員が意見を言いやすいように雰囲気作りを大切にしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤職員にも年1回賞与を配布したり資格に対しての給与設定をしている また乳幼児のいる職員に対して時短などの利用ができるよう配慮している		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人内で研修をし外部の研修情報は休憩室にファイルしてスタッフが見れるようにしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームの見学に行きサービス状況など話し合うようにしている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	必ず事前訪問をしてゆっくり話を聞きまた入所の際はアセスメントをして本人の理解に努めている		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	事前にお会いしてサービスの説明をすると共に入所に対して心配な事はないか確認する		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	グループホームの見学の際話を聞き他のサービスの説明もするようにしている		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	お盆拭きや洗濯たたみ、テーブル拭きなどをお願いしてやってもらっている		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	外出や受診などを依頼したり衣類の直し購入その他運営推進会議の参加など頼んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が来やすい雰囲気作りや長年行っていた理容室へ通ったり大好きだった和菓子をおやつに購入したりしている	家族や知人の訪問時にゆっくりとくつろげるよう、居室を広く作っている。また家族対応ではあるが、なじみの美理容や病院などへ通う支援をしている。昔から馴染みの和菓子店で菓子を買ってくることもあり、特に好評である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を配慮した座席決めやスタッフが和に入り会話の進行をしキャッチボールができるようにしている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅や病院などに移ったケースはその後連絡し状況確認している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り本人本位にし眠い時は食事の時間を遅らせたり散歩が好きな方はなるべく散歩をしたり努力している	入居時のアセスメントで意向を把握するほか、日々のケアでは言葉だけでなく表情や問いかけの中で本人の思いを探っている。朝食の時間を特に定めず、本人が起きて来た時としている。すぐに介助するのではなく、そばで見守る介護を実践している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時アセスメントをして把握に努めその後も書き足している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回の会議を通し現状の把握に努めまた1人1人に合わせた1日の過ごし方を提供している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が見直し家族に確認している また状況変化時はその都度相談話しあいをもっている	本人の思いや意向を月1回のカンファレンスで共有し話し合っている。計画作成担当者は職員の話し合いを基に計画を作成し、家族が来所の折に説明し、意見を聞いた上で同意をもらっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、食事、バイタル、一日の様子を個別記録に記入している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診付き添いできない状況の際はナースや介護スタッフが対応したり買い物の代行などおこなっている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージ 歯科 地域施設の把握をして支援している		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診医を含め今まで受けていた医療の継続が出来るようドクターとの連絡を密にとるようにしている</p>	<p>入居前の医療の継続を心がけ、医師に直接手紙を書き、家族に託している。受診結果は必ず知らせてもらい情報を共有している。家族同行での通院が無理な時や病状が悪化した時は職員が支援している。医師との連携は法人の看護師が行っている。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>朝必ず看護師が状況確認に来る為状況変化やバイタル再検の報告をしている</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中のカンファレンスに参加したりお見舞いに行き状況把握に努めている</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に確認すると共に状況が変化した際にも話し合うようにしている</p>	<p>開所当時にターミナルケアを経験しており、必要があれば看取りを行う方針である。家族には入居の折に確認を取っている。実施には家族と職員、更に医師等との段階的な連携が必要だと考えている。職員も看取りは自然なこととして受け止めている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>月1回の会議の時伝えるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営会議で協力の依頼をすると共に年1回消防訓練をしている	年に1度、消防署の協力の下、避難訓練を行っている。3月に消火器や緊急通報などの訓練を行った。地域の協力をお願いしているが、具体的な取り決めまではしていない。災害時の備蓄は、水や食糧などを1階に保管している。	夜間2人体制で安心ではあるが、実際の災害時を想定した訓練を利用者と一緒にぜひ行って欲しい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄などトイレ行きましょうなどと言わずこちらに来てもらっていいですか？などと声かけしている	声かけや書類の記載方法などは自尊心を損なわないよう常に配慮している。利用者の状態・気持ちを理解し、「待つ」ケアを行っている。百人一首が全部言えるなど、一人ひとりの得意な事を見つけ出す支援をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	3時におやつ飲み物などコーヒー、紅茶、お茶などから選択できるようにしたり日曜日メニューで何が食べたいか？聞いたり行きたい所など声かけして意見を聞くようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	傾眠が強い時は時間を変えて食事をしたり夜間眠れない時はフロアで話をしたりして対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしている人もいる 爪きりや髪カットなどは必要に応じ対応し、髪染めや髭剃りなども入浴の際おこなって清潔を保っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きをしてもらい食事は1人1人にあわせた形態でスタッフも一緒に食べている	国産の無農薬の野菜などにこだわりのある生活クラブ生協の「ワーカーズ・コレクティブあいあい」から食事を配達してもらっている。当日はテレビを消して音楽を流し、職員も全員同じものを食べ細やかに介助しながら声かけを行っていた。食事を小さく切ったり流動食にするなど個別の対応もしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握をすると共に10時にお茶の時間を作り入浴後に麦茶を出すなどして対応している 水分量の少ない方にはスタッフが声かけしたりポカリなどで対応している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は食後に洗浄したり夜間ポリデントで洗浄している また歯石の付きやすい方は週1回訪問歯科で口腔ケアを受けている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し誘導したりオムツの方はポータブルトイレに座るようにしている 状態に合わせて紙おむつからビタットパンツへ変更している	チェック表を基に、「こちらに来てもらっていいですか」など声かけを工夫しながら排泄の自立に向けて支援している。ポータブルトイレも利用し、「自分でする」工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時乳製品を取り入れ午前中体操などで身体を動かしている 天気の良い日は散歩に行ったり 階段の昇降などでなるべく運動するようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は2日に1回を予定しているがその日の体調や気分に変更したり外出の都合などにあわせて行っている	明るい浴室は丸型の五右衛門風呂を設置し、寝たきりの利用者でも職員が2人体制で湯船に入れるよう介助方法を工夫している。また、柚子湯や菖蒲湯など季節を取り入れたり、機嫌の悪い時は少し待って誘導するなどの工夫をしている。原則1日おきの入浴だが、毎日入浴を希望する利用者にも対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間がゆっくりな方それぞれにあわせ食事の提供をし昼食後は睡眠の時間を持つようにしている		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の分包はナースが管理 内服薬変更などは申し送りノートに記入し又薬の内服で様子が変わった時は家族やドクターに相談している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	鍋などをする時はビールが好きな方に用意したりまた甘いものが好きな方が多いので甘味を食べに行ったりしている また洗濯たたみや掃除機かけなどやれる事はお願いしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>お寿司など食べに行ったり初詣やみかん狩り梅見などの外出の機会や家族と共に墓参りに行く機会など支援している</p>	<p>花見やみかん狩りなど、毎月外食とセットで行事を行っている。寒い時期は階段で運動をしているが、暖かい日は散歩を行うようにしている。利用者の希望により、近くのコンビニエンスストアへの買い物の支援も行っている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物などする時を考え小額のお金を財布に入れたりお年玉の時期など準備している</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族から手紙が届いたりまた、送ったりしている また携帯電話を所持している方もいて家族に連絡している</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた飾りや各居室には表札を掛けて対応している</p>	<p>中央部にある居間には大きな雑飾りをしつらえ、季節感を出している。畳や木材をふんだんに使用したインテリアが落ち着きと安らぎを与えている。風呂場は太陽光を取り入れていて、明るく楽しんで入浴してもらえるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置台を置き自由に座り利用できるようにしている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	高さ調節のできる洗面台とキャビネット以外は家族が用意し使い慣れた家具など置いている	広めの居室には、高さを変えられる洗面台と備え付けのキャビネットがある。その他は利用者が自分の所持品を持ち込んでいる。ベットのほか、来客用のソファやテーブルなどが置けるほど広く、家族や知人と個室で過すことができる。鉢花や家族の写真、手作りの品などで思い思いにしつらえている。テレビを置いている利用者も多い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に表札を掛けトイレの位置がわかるように表示しイスやテーブルの高さ洗面所の高さに配慮している		